



平成26年3月25日

各 位

会社名 ダイソー株式会社
代表者名 代表取締役社長執行役員
佐藤 存
コード番号 4046 (東証第1部)
問合せ先 取締役上席執行役員管理本部長
多木 宏行
(TEL. 06-6110-1560)

新中期経営計画（2014年度～2018年度）について

当社グループは、1915年に創業し、国内で最初に電気分解法によるかせいソーダの工業的生産を開始いたしました。以後、プロピレンの誘導製品であるアリルクロライド（AC）、エピクロルヒドリン（EP）を中心とする有機化学品へ事業展開し、それらを起点に独自の機能化学品の育成により業容を拡大してまいりました。また近年は、ヘルスケア関連事業などの新たな領域を開拓し、収益基盤の強化に取り組むことにより企業価値の向上を図ってまいりました。

当社グループは、2015年に創立100周年を迎えます。この大きな節目に、新たなグループビジョンの下で一層の成長を図るため、中期経営計画「NEXT FRONTIER-100」を策定いたしましたので、その概要をお知らせいたします。

NEXT FRONTIER-100

2014年度～2018年度

— 新たなる挑戦 —

連結業績目標：**売上高 1,300億円**
経常利益 100億円
ROE 10%以上

基本方針

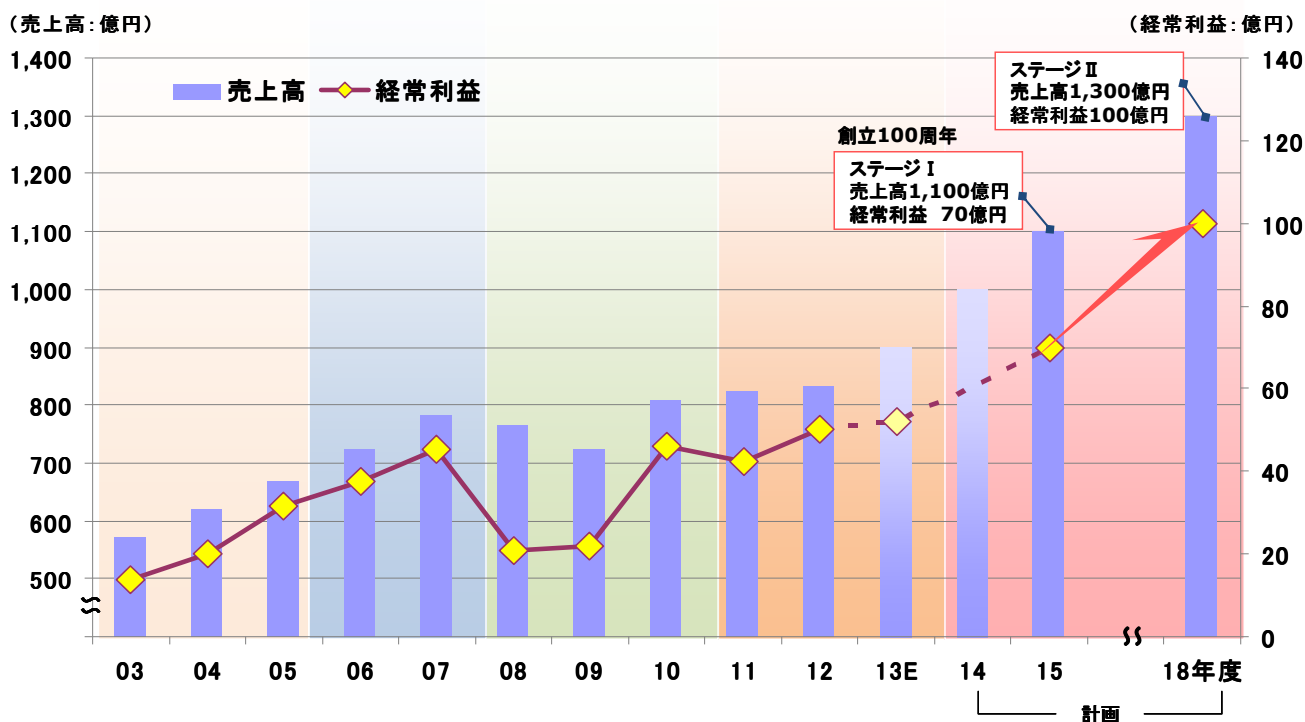
1. 新製品・新規事業を創出する
2. 海外事業を生産拠点構想を含め拡大する
3. ヘルスケア関連事業を収益の3本目の柱に育成する
4. 既存事業の再構築・再強化を実行する
5. 安定した財務基盤の下で戦略投資を推進する
6. 企業環境の変化に対応した諸制度の改革を推進する

I. 現中期経営計画「DYNAMIC ACTION-13」の総括

現中期経営計画「DYNAMIC ACTION-13」（2011年度～2013年度）の最終年度は、計画当初想定していなかった、東日本大震災、円高によるサプライチェーンの変化、原燃料価格の高騰などの事業環境の悪化に加え、世界景気の影響も受けたものの、売上高900億円、経常利益52億円と、ともに過去最高の業績を更新すべく邁進しております。

「DYNAMIC ACTION-13」の期間においては、「GLOBAL GROWTH-10」（2008年度～2010年度）から引き続き、機能化学品への積極的な投資、海外ネットワークの拡充などに取り組むとともに、重点施策であるAC・EP生産体制の強化により、新たな成長基盤の構築を進めることができました。また、将来の収益の柱とするヘルスケア関連事業についても着実に伸長させることができました。さらに、当社が従来から取り組んできたM&Aの活用により、新規事業の獲得も図り、機能化学品事業の拡充を行ってまいりました。

（中期経営計画および業績の推移）



II. 新中期経営計画「NEXT FRONTIER-100」の概要

1. グループビジョン

スペシャリティケミカルで収益をあげる存在感のある会社	
1. 収益力	高付加価値のスペシャリティケミカルを強化
2. 成長力	成長性が高い市場で戦える事業を展開
3. 技術力	フロンティア精神に培われた独創的技術を開発
4. 戦略投資の推進	安定した財務基盤の下で戦略投資を推進
5. 挑戦する企業風土	勇気・熱意・創造力・行動力を具えた人財を育成

2. 基本目標

本計画は2014年度から2018年度までの5ケ年とし、創立100周年の2015年度までを区切りとした「ステージⅠ」と、2016年度以降の「ステージⅡ」の2段階に分け、各ステージの業績目標の達成に向けて取り組んでまいります。

(単位：億円)

	ステージⅠ (2014～2015年度)	ステージⅡ (2016～2018年度)
連結売上高	1,100	1,300
連結経常利益	70	100
ROE (%)	9 以上	10 以上

- ・ステージⅠ：AC・EPおよびその誘導製品を中心に既存事業の生産体制の再構築と再強化を図り、海外市場に軸足を置いて事業の拡大に取り組めます。また、ステージⅡでのさらなる成長に向け、新製品・新規事業の開拓を推進してまいります。
- ・ステージⅡ：ヘルスケア関連事業を基礎化学品、機能化学品に次ぐ3本目の収益の柱へ育成するとともに、新製品・新規事業の創出、コスト削減の推進など、ステージⅠで取り組んだ重点施策の成果を収益として実現させてまいります。

3. 基本方針

「NEXT FRONTIER-100」では、グループビジョンの実現に向けて「新製品・新規事業の創出」と「海外事業の拡大」を成長エンジンと位置づけ、事業の拡大と強化に取り組んでまいります。

新製品・新規事業につきましては、開発体制を強化し、当社が強みを発揮できる領域を中心に、ライフサイエンス、エネルギー・環境、電子材料の分野で開発を推進いたします。さらに、新規事業の早期立ち上げを全社的に推進するプロジェクトを展開いたします。これにより「NEXT FRONTIER-100」の最終年度である2018年度に、新製品売上高比率20%の達成を目指してまいります。

海外事業では、当社のコア事業である基礎化学品、機能化学品および商社部門であるダイソーケミカルを中心に、堅調な経済発展が見込めるアジアを最重要エリアとし事業を拡大します。また、シェール革命が進行する北米市場、さらなる経済成長が期待できる南米市場も視野に入れ、事業拡大に最適な生産拠点構想も含めた海外ネットワークの構築を推進いたします。さらに、グループ全体を俯瞰して効率的に海外戦略を推進するプロジェクトを立ち上げ、全社的なグローバ

ル展開を加速いたします。これにより2018年度に海外売上高比率25%の達成を目指してまいります。

事業分野別では、ヘルスケア関連事業を重点的に強化する事業として位置づけ、積極的な投資により医薬品精製材料のシェア拡大と周辺素材への進出、医薬品原薬・中間体の開発テーマの推進を図ります。さらに、滅菌・除菌や機能性食品素材の分野での新製品開発にも注力し、基礎化学品、機能化学品に次ぐ収益の3本目の柱として育成してまいります。

既存事業では、これまで当社が進めてまいりました競争力強化への取り組みを、生産、購買、物流、商流などの総合的なコスト構造改革プロジェクトを立ち上げて、各事業のパフォーマンスの向上を図ってまいります。

基礎化学品は、事業環境の変化を注視し、選択と集中による事業の統廃合やアライアンスなどの再構築を推進いたします。EP事業は、引き続き水島地区のコスト削減によりAC・EPチェーンのグローバル競争力の強化を図るとともに、国内生産能力を年間8万tまで増強いたします。また、海外立地も視野に入れたEP事業再強化構想につきましても検討を進めてまいります。

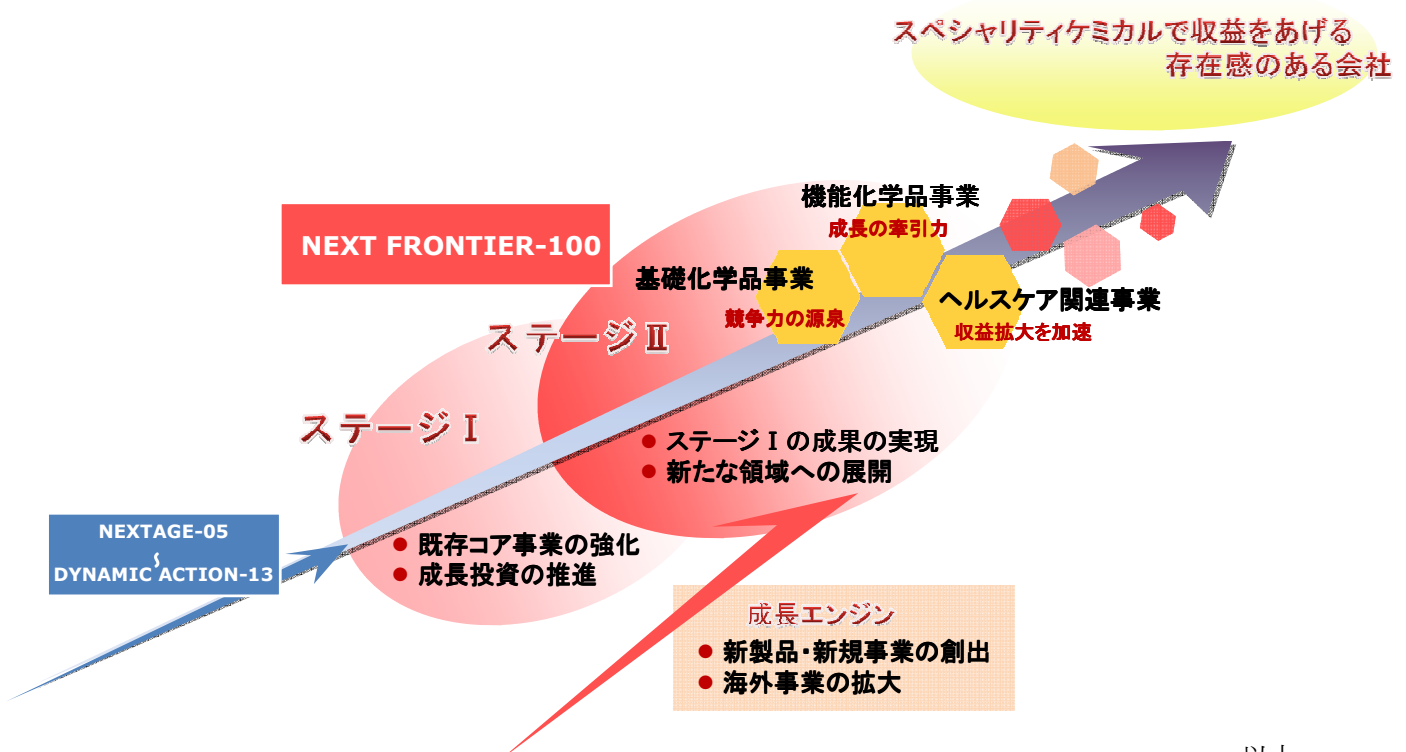
機能化学品は、AC・EP誘導製品の用途開発を強化するとともに、新規アリル樹脂や新規ゴムの開発などにも取り組み、事業拡充を図ってまいります。

また、継続的な戦略投資を可能にする安定した財務基盤を維持し、積極的な事業展開やグローバルコスト競争力獲得の実現に向けて、今中期計画を通じて400億円の投資を推進いたします。

さらに、事業領域と地域の拡大や今後の企業環境の変化に対応した人事、管理の諸制度の改革に取り組み、経営インフラを強化してまいります。

当社グループは、以上の基本方針の実行により収益力の拡充を図り、さらなる持続的成長が可能な躍動感のある企業グループへの飛躍を目指してまいります。

(「NEXT FRONTIER-100」成長戦略イメージ図)



以上